



WEBにも掲載しています

編集 はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田 3-6-3 TEL:3491-2000
sakilc@city.shinagawa.tokyo.jp
発行元 大崎第一地域センター



子どもも
大人も

楽しい 絵本の 読み聞かせ



絵本で世界が広がる

読み聞かせサークル「おはなしたまご」の立ち上げや、区内小学校の図書ボランティア活動に関わってきた石井澄子さん（大崎第一地区在住）は、「読み聞かせの楽しさをたくさんの方に知ってほしい」と語ります。

石井さんは長男の出産予定日1カ月前に破水し、早期胎盤剥離で緊急手術を受けました。母子ともに無事でしたが、長男8カ月の時にけいれんを起こし、医者には「発育や発達に支障が出るかもしれない」と言われたのだそう。

さまざまな苦しみを経験する中で、自分のできることをするしかないと思った石井さんは、もともと本が好きだったこともあり絵本の読み聞かせを始めました。長男は絵本に熱中し、1日に何十回も読み聞かせをせがんだそうです。

結局、大きな問題もなく成長し言葉の習得も早かった長男ですが、1歳を過ぎてから読み聞かせの会へ連れていくと動き回ってしまい、「参加は遠慮してほしい」と言われてしまいました。



石井さんと現在大学生の長男

子どもにとっては、親と同じ時間を共有するのと同じく、家で読み聞かせを楽しむコツは、気負わず自由に読むこと。いい絵本には力があるので、読み方の上手い下手は関係ないそうです。上手に読もうと声を変えようと、子どもは声に集中してしまい絵本の世界に入りづらくなります。

石井さんは、「大人のスピードで読まないことも大切。子どもが絵をじっくりと見られるよう、ゆっくり読んで、一呼吸置いてからページをめくってください」と話します。

「小さい子はおとなしく座っていることより、絵本を楽しめればいいのでは」と考えた石井さんは、それを機に、誰でも気軽に参加できるサークルを知人と作り活動を開始。絵本を通じて世界が広がる喜びを子どもたちに伝えたいとの思いもありました。



長男と中学生の長女

子どもと同じ目線で、 気楽に読んでみる

「小さい子はおとなしく座っていることより、絵本を楽しめればいいのでは」と考えた石井さんは、それを機に、誰でも気軽に参加できるサークルを知人と作り活動を開始。絵本を通じて世界が広がる喜びを子どもたちに伝えたいとの思いもありました。

読み聞かせる時は、子どもを膝の上に乗せたり、となりに座ったりして、同じ目線にするのが良いそう。子どもが破りがちなカバーはあらかじめ外しておく、ページもめくりやすくなります。

石井さんの長女は絵本にあまり興味を示しませんでした。自身が楽しみながらあきらめずに読み聞かせを続けたところ、長女も絵本が好きになったそうです。

「JPCR読書アドバイザー」の資格を持つ石井さんは、さまざまな場所で読み聞かせをしてきました。心に響く物語を聞いて、大人の表情が変わることもあったといいます。

「絵本の世界に入れば、心は自由にどこへでも行けます。子どもと一緒に大人も読み聞かせを楽しんでみてください」と呼び掛けました。



集団への読み聞かせをすることも(コロナで休止中)



地域で活躍するクラブやサークルの紹介記事を募集しています!

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ご自由にお取りいただけるよう、多数部の
回覧をお願いいたします。

(編集委員 若松)